

月刊

インド



Monthly Journal of the Japan-India Association

公益財団法人 日 印 協 会 (日印間の政治・経済・文化交流に貢献して 111 年)



インド大使館から見る千鳥ヶ淵の桜

2014 年 4 月 2 日 撮影

目次

1. 2014 年度予算理事会 報告…………… P. 3
2. インド最大の日本見本市『クールジャパン・フェスティバル 2014』…………… P. 7
3. 3. 11 東日本大震災 女川町追悼式に参列して…………… P. 8
4. インドニュース(2014 年 2-3 月)…………… P. 10
5. イベント紹介…………… P. 18
6. 新刊書紹介…………… P. 21
7. 日印貿易概況(2013 年第 4 四半期-前年との比較)…………… P. 22
8. 掲示板…………… P. 23

1. 2014 年度予算理事会 報告

Report from the Board of Directors

◆2014 年度予算理事会の開催

去る 3 月 4 日 (火)、4 月から始まる新年度事業計画案と予算案などを審議する理事会が、港区六本木の国際文化会館で下記のとおり開催され、理事 19 名中、森 喜朗会長以下 3 名の副会長(槍田 松瑩氏、岡 素之氏、坂根 正弘氏)を含む 14 名の理事並びに監事 1 名が出席しました。

昨 2013 年度は、天皇后両陛下のご訪印など日印関係の一層の強化が図られたほか、当協会創立 110 周年という節目の年となりましたが、2014 年度はそれらを受けて、現在極めて良好な日印関係がさらに飛躍と発展を図ることを目標に、事業計画と予算が審議され、出席理事の全会一致により原案どおり承認されました。

「決議事項」

第一号議案 『2014 年度(平成 26 年度)事業計画(案)』の承認に関する件

第二号議案 『2014 年度(平成 26 年度)予算(案)』の承認に関する件

第三号議案 『評議員会の招集』に関する件

「報告事項」

(1) 天皇后両陛下及び安倍総理のインドご訪問

(2) 会員の現状

(3) その他



〈理事会の様子 右写真の窓際中央が森会長〉

◆第一号議案 『2014 年度(平成 26 年度)事業計画』

平林理事長より、「2014 年度事業計画案」に基づき、下記の通りの説明が行われ、審議の結果、全員一致でこれを承認されました。

2013 年は、当協会の前身「日印協会」が 1903 年(明治 36 年)に創立してから 110 年という節目の年でした。11 月末には天皇・皇后両陛下が 53 年振りにご訪印、更に今年 1 月末には安倍総理がインドにとって最も重要な祝日である“Republic Day＝共和国記念日”記念行事の主賓として出席し首脳会談を行うなど、長い日印関係の歴史のうえでも特筆される年でした。

新年度では、近年とみに盛り上がっている日印関係を、人の交流のほか、講演会、セミナー、シンポジウム等の開催を通じてさらに深みを増すべく、「日印両国の友好親善と相互理解の増進」及び「インドの諸事情の調査と紹介」の活動を内外の関係各位と協力して行います。

2003 年以降順調に発展をしてきたインド経済ですが、一昨年からの減速基調から脱せない状況のなか、遅くとも今年 5 月までに実施される総選挙では、2004 年から続いた国民会議派を中心とする政権の交代が真剣に取り沙汰されています。昨年にはインド全土で 1000 社を超えた日系企業は勿論、真剣にインド進出を検討している多くの日本企業も総選挙の結果を注視しています。

新政権が停滞する国内経済の活性化のために、経済発展の鍵を握る外資に対する規制や、種々の税制改正、さらには経済成長のネックとなっている電力や鉄道、道路等のインフラ投資にどこまで思い切った施策を打つかが注視されています。

このような状況のなかで、当協会としては、協会の法人会員でもある法律事務所や会計事務所、また在印日本大使館や在日インド大使館、さらにジェトロ、商工会議所の日印経済委員会や経団連等の内外の関係機関や団体と連携、また協力して既存の会員は勿論、進出を計画している企業や団体に対する情報提供や相談活動を重点的に行います。

I. 経常的な事業として、

- (1) インドの政治、経済、社会、文化に関する情報収集、調査を行い、それらを講演会や機関誌『月刊インド』や web 季刊誌『現代インド・フォーラム』を通じての紹介。(公①)。
- (2) 今年、一段と機能を充実した当協会のホームページでは、昨年始めたフェイスブックを通じたインド関連情報の発信とインド・ネットワークの拡充。(公③)
- (3) 日本企業のインド進出に対するアドバイスや企業の幹部の方々を対象として講演会の開催、さらに大学や大学院の「インド紹介講座」に対する支援や学生団体の交流事業への支援。(公⑤)
- (4) 多様な国インドの社会や歴史、更に舞踊や音楽などの文化行事を行う団体及び個人に対して後援やナマステ・インディアのような日本各地のインド祭への参加並びに支援。(公④)。
- (5) 在日インド人コミュニティとの連携を深め、さらにインド各地の印日協会や経済団体との交流促進。(公②)

※公①～⑤については、注をご参照ください。

II. 会員の状況

1. 法人会員

協会の活動と財政基盤を支える法人会員の数は 2014 年 2 月現在 116 社です。インドに新規に進出する企業が増える反面、当協会のように直接的なメリットが見えない団体との関係に距離を置く会社もあり、予断は許さない状況ではありますが、今年度は差引で 5 社増やすことを目標とします。

日系企業は昨年 10 月現在で 1,073 社(在印日本大使館調べ)で、昨年より 150 社以上増加しています。各役員や会員の皆様におかれても情報の提供並びに入会へのお口添えをお願いします。

2. 個人会員

2014 年 2 月末現在、昨年 3 月より差引 7 名の増加で 486 人ですが、今年度中に 500 人を超すことを目標とします。特に現在 32 人の学生会員と 39 人のインド人会員を、更に増やす努力を行います。

III. 収支状況

1. 事業活動収入は約 26 百万円と前年予算に比して約 1 百万円の減を見込みます。

主たる収入である会費収入は、法人会員、個人会員を増やすことで 2,385 万円と 65 万円の増収を見込みますが、前年度には 200 万円あった記念行事関係の寄付金収入を見込まないことで減収となります。

2. 事業活動支出では、「110 周年記念行事」関係の支出がなくなることから約 250 万円の支出減を見込みます。

3. 事業費支出では、今年3月からの新規加入を迫られている役員及び事務員に対する社会保険(厚生年金及び健康保険)関係で支出が約150万円増加します。
4. 人件費を中心に支出は増加しますが、事務機器などの事務所経費を合理化し、収支差額としては200万円程度のマイナスで収めます。
5. 約25百万円の繰越金があることから当面の収支に不安はありませんが、協会が主体の行事や活動を行なうには十分とはいえず、近い将来に抜本的対応の検討が必要となります。

◆第二号議案『2014年度(平成26年度)予算(案)』

原常務理事より、「2014年度予算案」(6頁の表)に基づき説明をしたところ、全員一致で承認されました。

◆第三号議案 評議員会の招集

平林理事長より、定款第17条による評議員会開催について説明があり、審議の結果、出席理事の全会一致により、定款第18条に基づいて、「2013年度決算評議員会」を来る6月4日(水)開催することが決議されました。

◆報告事項

- (1) 「天皇皇后両陛下のインドご訪問」については、首席随員として随行した森喜朗会長より、『月刊インド』2014年1月号の記事を紹介しつつ、報告されました。
また、「安倍総理のインドご訪問」については、平林理事長より、『月刊インド』2014年2月号の関連記事を紹介しつつ報告されました。
- (2) 『会員の現状』については、平林理事長より配布資料に基づいて報告されました。
- (3) 『その他』については、平林理事長より来る5月27日(火)に予定される「2013年度決算理事会」の開催について報告されました。

注：定款に定める公益目的事業

事業番号

- 公① インドの政治、経済、文化などに関する情報収集、調査、研究
- 公② 日本人とインド人との交流促進の場の提供
- 公③ 講演会の開催、更に機関紙の発行を通じたインド及び日印関係に関する知識、情報の普及及び啓発
- 公④ 文化行事等の開催及び後援などによる文化交流の促進
- 公⑤ 日印双方の政府、関係団体に対する提言。さらにこの法人の目的を達するために必要な事業

「日印協会110周年記念バッチ」頒布致します。

会員の方に優先的に、実費(600円)にて頒布致します。

価格、受け取り方法(郵送の場合は送料がかかります)等は、日印協会事務局までお問い合わせ下さい。

E-mail partner@japan-india.com

FAX 03-5640-1576

表



裏
(拡大図)



※ 無くなり次第、頒布は終了致します。

公益財団法人 日印協会 第二号議案 2014年度（平成26年）予算（損益計算書ベース）（単位：円）				
科 目	2014年度予算	2013年度予算	差 異	注 記
I 経常増減の部				
(1) 事業活動収入				
① 基本財産運用収入	1,300	5,000	-3,700	
② 受取会費（含 入会金）	23,850,000	23,200,000	650,000	* 会費収入増
特別法人会員	11,300,000	11,300,000	0	
一般法人会員	9,700,000	9,200,000	500,000	(5社増加目標)
個人会員	2,850,000	2,700,000	150,000	(25人増の500名超目標)
③ 事業収益	1,500,000	1,700,000	-200,000	
1 情報収集・調査研究	0	0	0	
2 交流促進	1,000,000	1,200,000	-200,000	
3 講演会・月刊インド	500,000	500,000	0	
4 文化行事の開催	0	0	0	
5 提言事業	0	0	0	
④ 受取寄付金	500,000	2,000,000	-1,500,000	
一般寄付金	500,000	500,000	0	
記念事業関係	0	1,500,000	-1,500,000	
⑤ 雑収益	5,000	0	5,000	
事業活動収入計(①～⑤)	25,856,300	26,905,000	-1,048,700	
(2) 事業活動支出				
① 直接事業費	7,200,000	9,700,000	-2,500,000	
1 情報収集・調査研究	1,300,000	1,300,000	0	
2 交流促進	2,000,000	2,700,000	-700,000	
3 講演会・機関誌・HP	3,200,000	3,000,000	200,000	情報提供と相談活動重点
4 文化行事の開催	500,000	2,500,000	-2,000,000	
一般文化行事	500,000	500,000	0	
記念事業	0	2,000,000	-2,000,000	* 大型記念事業予定せず
5 提言事業	200,000	200,000	0	
② 間接事業費	16,240,000	14,622,000	1,618,000	
役員報酬	3,360,000	3,360,000	0	
事務人件費	6,336,000	6,320,000	16,000	
福利厚生費	1,480,000	0	1,480,000	* 社会保険に新規加入
物件費	5,064,000	4,942,000	122,000	
旅費交通費	960,000	800,000	160,000	
賃貸料	2,640,000	2,500,000	140,000	
通信費他	1,440,000	1,600,000	-160,000	* 印刷機リースアウト
減価償却費	24,000	42,000	-18,000	
事業費 計 (①+②)	23,440,000	24,322,000	-882,000	
③ 管理費支出			0	
役員報酬	840,000	840,000	0	
事務人件費	1,584,000	1,580,000	4,000	
福利厚生費	370,000	0	370,000	
物件費計	1,566,000	1,541,000	25,000	
会議費	300,000	300,000	0	
旅費交通費	240,000	200,000	40,000	
賃貸料	660,000	630,000	30,000	
通信費他	360,000	400,000	-40,000	
減価償却費	6,000	11,000	-5,000	
管理費支出 計	4,360,000	3,961,000	399,000	
事業活動支出計(①+②+③)	27,800,000	28,283,000	-483,000	
(3) 事業活動経常収支差額	-1,943,700	-1,378,000	-565,700	
II 経常外増減の部				
投資・財務活動収支	0	0	0	
III 指定正味財産増減額	0	0	0	
当期正味財産増減額	-1,943,700	-1,378,000	-565,700	
正味財産期首残高	27,035,039	* 28,413,039	← * 2013年4/1実績	
" 期末残高	25,091,339	27,035,039		
(指定正味財産)	(5,000,000)	(5,000,000)	0	← 基本財産

2. インド最大の日本見本市『クールジャパン・フェスティバル2014』 Cool Japan Festival 2014 in Mumbai

株式会社 LA DITTA 遠山 晃(個人会員)

■ 25 の日系企業・団体が参加



株式会社 LA DITTA(ラ・ディッタ)(東京都港区)は、去る 2014 年 1 月 17 日(金)～19 日(日)の 3 日間、インド・ムンバイ市内のショッピングモール(ハイストリート・フェニックス)で第3回目となる『クールジャパン・フェスティバル 2014』を開催しました。日系企業のインド市場進出の足がかりとして、またさらなる PR の場としてキッコーマン株式会社、麒麟ホールディングス・シンガポール、株式会社吉野家インターナショナル、株式会社はなまる、パナソニック AP インド株式会社、株式会社はくばく、エイベック

スグループなど 25 の企業・団体等が本フェスティバルに参加しました。また、3 日間の来場者数は 100,500 名にのぼりインド最大の日本見本市として会場は連日にぎわいました。

■ 日本食や日本のエンタメコンテンツが好評！

農林水産省の特別協力のもと日本食の PR を主要テーマに設定し寿司や焼き鳥、鶏井、うどんなどの日本食や醤油、大麦、飲料などの日本食材を販売したところ、いずれの日本食も大変好評で約 4,670 食が完売しました。このほかにも高品質な日本のデンタル製品やジャパンコンテンツに代表される漫画やアニメグッズ、メイクアップ製品などを紹介・販売しました。3 日間の会期中の食・関連、日用品、コンテンツ関連製品の売上総額で 975,350 ルピー(約 180 万円: MUFG 1 月 22 日為替レート換算値)にのぼり、来場者数の多さと合わせて日本食や日本の製品に対する関心の高さが伺えました。

また、世界に誇るジャパンコンテンツを多数紹介しました。

1. エイベックスグループ秘蔵のティーンガール ダンス&ヴォーカルユニット「Prizmmmy☆(ぷりずみー)」が日本代表のポップコンテンツとしてインドに挑戦!
2. 阿波踊りパフォーマンス集団「創作舞踊集団 寶船(たからぶね)」が阿波踊りをインド初披露!
3. 世界初のインド人演歌歌手チャダ氏が演歌の心を日本語・ヒンディー語で歌い上げる!
4. 和太鼓チーム「天鼓(てんこ)」が来場者参加型のステージパフォーマンスを披露。
5. インドで茶道の普及に努める「羽衣(はごろも)」が茶の湯を紹介。
6. 2013 年にインド初の漫画喫茶「Mangaful café」が日本の漫画 300 冊を紹介!
7. ムンバイ日本人学校の小・中学生 30 名がソーラン節やポリウッドダンスを披露!
8. 訪日促進英字フリーマガジン『Wattention インド版創刊号』を配布!



〈筆者紹介〉 遠山 晃氏 (とおやま・あきら)

東京外国語大学卒業

丸紅株式会社入社、1997-2000 年までデリー駐在。

丸紅株式会社退社後、大学講師(インド経済・文化)、社内研修講師(インドビジネス)などを経て 2009 年 4 月外務省入省、在ムンバイ日本国総領事館勤務、経済班領事。

2013 年 3 月外務省退職。

〈本文中の写真提供: 遠山晃〉

3. 3.11 東日本大震災 女川町追悼式 3rd Memorial Ceremony for March 11th, Disaster in Onagawa

サンジャイ・パンダ駐日インド公使、サティンダー・シン駐日インド防衛駐在官、オム・パーカッシュ二等書記官
女川町ご訪問および追悼式参列について

インド国家災害対応隊 NDRF 同行通訳兼コーディネーター 平本 謙一郎(個人会員)

1. はじめに

平成 26 年 3 月 10 日インド大使館員が東日本大震災で甚大な津波被害を受けた宮城県牡鹿郡女川町を訪問、翌 11 日同町主催の追悼式に参列し、ディーパ・G・ワドワ駐日インド特命全権大使代理として、代表献花を行なった。大使館員および同行メンバーは以下の通り。

- ▶サンジャイ・パンダ駐日インド公使(代表献花)
- ▶サティンダー・シン駐日インド防衛駐在官(代表献花)
- ▶オム・パーカッシュ駐日インド二等書記官(代表献花)
- ▶平本謙一郎(コーディネーター通訳)(一般献花)
- ▶渡邊太一(通訳)(一般献花)
- ▶佐々木千枝(記録係)女川町石浜出身(旧姓植木)(一般献花)



また、これに先立ち10日午後から11日午前にかけて、震災から丸3年が経過した女川町の現状を把握するため、上記メンバーで同町の視察を行なった。訪問先および訪問順は以下の通り。(視察訪問順)

◆10日午後

輝望の丘 / れすとらんニューこのり(昼食) / 女川さいがいFM / 東日本大震災慰霊之碑 / 女川いのちの石碑¹(写真1) / 女川町立小学校 / マスカー(冷凍倉庫・冷蔵倉庫) / 女川町役場 / 須田善明町長表敬訪問(写真2) / 蒲鉾本舗高政 / 女川温泉華夕美に宿泊

◆11日午前

東北電力女川原子力発電所 / Cafe ごはん「Cebolla-セボラ」(昼食)



〈写真1: 女川いのちの石碑〉

左から、パンダ公使、シン防衛駐在官、パーカッシュ二等書記官

2. 10日に行なわれた女川町長表敬訪問について

女川町長、須田善明氏との会談(要約)

◇東日本大震災被害状況について

須田町長は3月11日、あの日に何があったのか、統計に基づいた数字とともに説明した。

- 震災前の女川町人口: 10,014人 / 死者・行方不明者: 827人

女川町住民は10人に1人が行方不明あるいは亡くなっており、被害は最も大きい自治体の一つである。

◇最近の復興状況について

- 住宅再建は最も重要な課題であり、女川町総合運動場も含めた災害公営住宅の整備が各場所で行われている。
- 女川町内の低地(津波浸水域)については、約10-15mのかさ上げ工事が急ピッチで進められている。
- 現在、新しい女川駅の駅舎が、今建設中の新しい商業施設の中心に設置される予定である。
- 今現在、女川町への観光誘致のプロモーションを行なっている。特に牡鹿半島にある金華山黄金山神社周辺の観光に力を入れている。

◇インドおよびインド国家災害対応隊(NDRF)に対する感謝



須田町長は津波被害のあと、女川町に多大なるご支援を頂いたインド、そして NDRF 部隊に深い感謝の意を表した。そしてまた、インドと女川町とがこれからも成熟した良い関係を築いて行けるようにしたいと述べた。

〈写真2：須田町長表敬訪問〉

左から、佐々木、筆者、須田町長、パンダ公使、シン防衛駐在官、パーカッシュニ等書記官、渡邊

3. 11日追悼式について

東日本大震災「女川町」追悼式は平成 26 年 3 月 11 日(火)午後 2 時より粛々と執り行われた。開催場所は女川町総合体育館大体育室。昨年と同じ場所である。昨年はアナンタ・クリシュナ駐日インド大使館参事官(当時)、インデルパル・ワリア駐日防衛駐在官(当時)の 2 名が日帰りで女川町に入り、11 日の同追悼式に参列、代表献花を行なった。今年は上記メンバーが前日の 10 日から現地入りし、女川町役場、女川町観光協会および地元女川出身者の方々の協力のもと、町内視察を行なったことは、震災以来のインドと女川との絆²、ひいては昨今の日印両国の関係強化の延長線上にあるのは間違いない。式典は東日本大震災「女川町追悼式」次第に則り、恙無く執り行われた。午後 2 時 46 分の黙祷後、国主催追悼式映像がスクリーンに映し出され、内閣総理大臣式辞、天皇陛下の御言葉へと続き、代表献花となった。

3 人の名前がそれぞれ読み上げられると、3 人揃って祭壇中央に歩み寄り、まずは参列者に対して深く一礼。その後用意されていた献花を手に、一礼ののち祭壇へ進み献花。更に祭壇への一礼ののち、再び参列者への一礼をもって、代表献花は無事終了した。人口約 1 万の港町女川。その住民の 1 割に当たる約千人が津波の犠牲となった女川町。その御霊に哀悼の意を表すべく、この度の追悼式にインド大使館のお三方がご参列頂けたことは、一日本人として非常に感慨深く、また心からの感謝の念を感じずにはいられない。大役の前には来賓控え室にて、宮城県知事代理教育長の高橋仁氏、衆議院議員で内閣府大臣政務官兼復興大臣政務官の小泉進次郎氏とも交流。親善親交の使者としてのお役目も全うされていた。

4. おわりに

今回は平成 26 年度 3 月 11 日東日本大震災「女川町」追悼式参列に伴う、代表献花およびインド大使館員の女川町訪問について述べた。今後は機会があれば、今回の活動の端緒となったインド国家災害対応隊(NDRF)の女川町での知られざる活動および活躍の詳細について述べる事ができればと考えている。写真資料の照会、講演依頼等は下記連絡先までご一報下さい。

〈筆者紹介〉 平本 謙一郎(ひらもと・けんいちろう)

1968 年生まれ / 神奈川県横浜市出身

國學院大学経済学部経済学科卒 / 國學院大学大学院文学研究科文学専攻高度国語・日本語教育コース修了

社団法人東京アメリカンクラブ所属 / 東日本大震災インド国家災害対応隊(NDRF)通訳

在日インド大使館日本語講師

連絡先 E-mail ksinter2000@gmail.com

〈本文中の写真提供：平本 謙一郎〉

¹ 女川いのちの石碑プロジェクトについてはこちらの URL をご参照下さい。〈<http://www.inotinosekihi.com>〉

² 女川町におけるインド隊救助救援活動についての概要は、こちらの外務省[初めて海外に支援隊を派遣したインド]の項目 URL 〈<http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/pr/wakaru/topics/vol173/>〉をご参照下さい。

4 インドニュース (2014 年 2-3 月)

News from India

◆◆◆◆ 2014 年 2 月分 ◆◆◆◆

I. 内政

2月1日、2日

- 1日付ザ・ヒンドゥー紙によれば、1月31日に辞職したヴィジャイ・バフグナ前首相に代わり、ハリシュ・ラワット水資源大臣が、ウッタラカンド州首相に就任した。翌2日には、ムカジー大統領が、ハリシュ・ラワット水資源大臣の辞職を受理し、首相の助言に従い、グラム・ナビ・アザード保健・家庭福祉大臣に対し、水資源大臣の任務を兼ねるように指示した。

メモ:

辞職したバフグナ前ウッタラカンド州首相は、昨年6月に発生した同州の大規模な洪水被害の救援活動及びその後の復興の遅延や不手際についての責任を党内外から問われていた。

2月7日

- 7日付ザ・ヒンドゥー紙は、4月に任期を迎える上院議員計55議席(16州)について7日に選挙が実施されると報じた。

メモ:

公式な発表は見受けられないが、予定通り上院選挙が実施された。16州のうち、12州(55議席中38議席)については、事前に各党内及び各党間で調整した結果、改選議席数と同数が立候補し無投票での選出となっている。なお、現職議員が任期満了を迎え、今回当選した後任議員が就任した後に、選挙結果についての正式な発表がなされると見られる。

2月14日

- 2月14日付、タイムズ・オブ・インディア紙は、総選挙に関する世論調査の結果を発表した。当該調査結果によれば、インド人民党(BJP)率いる国民民主連合(NDA)は227議席(うちBJPは202議席)を獲得するという。一方で、 kongress 党率いる統一進歩連合(UPA)の議席は101議席(うち kongress 党は89議席)に留まるとされた。

メモ:

ただし、BJPの首相候補であるモディ・グジャラート州首相が連邦政府首相になるためには、BJPが210議席以上獲得する必要があるとされている。

- 15日付ザ・ヒンドゥー紙他各紙によれば、ケジリワル・デリー準州首相は、デリー準州議会においてデリー・オンブズマン制度導入法案(ジャン・ロクパル法案)を提出できなかったことを理由に辞職した。

メモ:

報道では、ケジリワル準州首相は、以前から、ジャン・ロクパル法案の採択は叶わない場合には辞職する旨述べていたとも伝えられている。翌15日には、ムカジー大統領が、デリー準州副知事提出の報告書及び2月15日に行われた内閣の会議における助言に基づき、ケジリワル同州首相と同準州内閣の辞職を受理するとともに、同準州議会は解散せず、同準州において大統領による統治を実施することを承認した。

2月17日

- 17日付ヒンドゥスタン・タイムズ(HT)紙によれば、インド陸軍は、'China Cell'と呼ばれる、中国の増大する軍事的能力を監視するためのチームを編成した。情報筋によれば、このチームは、中国の軍事的能力のみならず、国際関係における戦略、ソフトパワー分野での取り組みや経済改革についてもモニタリングを

行うことになっている。

2月25日

- 25日付HT紙によれば、11の左派諸党及び地域政党らが、連立して कांग्रेस党とBJPの二大政党に代わって政権成立を目指すことを発表し、共同宣言を発出した。誰がトップに立つか、という問題点は解決されていないが、今回の発表に参加した政党には、インド共産党(CPI)、アンナ・ドラビダ進歩連盟(AIADMK)、ジャナタ・ダル(統一派)(JD(U))等が含まれている。

Ⅱ. 経済

2月14日

- インド商工省は、14日、卸売物価指数(WPI)に基づく1月のインフレ率を5.05%(速報値)と発表した。昨年9月から11月まで7%台に高止まりしていたインフレ率は、11月から下落し始め、ようやく低水準となった。

メモ:

下落の要因は、高騰が続いていた野菜価格に先月にも増して落ち着きが戻ったことが挙げられる。

2月17日

- 18日付HT紙によれば、17日、チダンバラム財務相が、国会に2014年度暫定予算案を提出した。同財務相は、総選挙を前に人気策をとるこの最後の機会を捉え、一部消費財と車の物品税を削減した。
- 18日付ザ・ヒンドゥー紙他は、国防予算が10%増の2.2兆ルピーであったことについて、伸び率が低いと批判し、中国の国防予算はその3倍とし、中国との防衛能力の差を埋め合わせることはならないだろうと論じた。

メモ:

総選挙の年に提出される予算案は、新規政策を盛り込まず、経常経費を中心とした暫定予算案となる。歳入および歳出の総額は、17.6兆ルピーとなり、前年度比11%増となった。

2月28日

- 28日、インド政府中央統計局は、2013年度第3四半期(13年10-12月)の実質GDP成長率を4.7%と発表した。第1四半期は4.4%、第2四半期は、4.8%であった。

Ⅲ. 外交

2月4日～11日

- 11日付の印海軍のプレスリリースによれば、4日～11日、インド海軍主催の多国間訓練「ミラン2014」がアンダマン・ニコバル諸島のポートブレアで行われた。インドを含む17ヶ国が集い、1995年の同訓練開始以来最大のものとなった。

メモ:

「ミラン2104」は、隔年でポートブレアにおいて開催される。今回の参加国は、インド、オーストラリア、ニュージーランド、シンガポール、タイ、インドネシア、マレーシア、ミャンマー、バングラデシュ、スリランカに加え、初参加となった、フィリピン、カンボジア、モルディブ、ケニア、タンザニア、モーリシャス、セーシェル。

2月7日

- 8日付ザ・ヒンドゥー紙によれば、7日、チェンナイにおいて南インドで初となる韓国総領事館の開設式が行われた。リー駐インド韓国大使は、チェンナイ市及び周辺に約4,000人の韓国人が在住し、またヒュンダイ自動車、サムソン電子工業を始め約150の韓国企業が活動していることを紹介しつつ、チェンナイ・バガロール産業回廊は今後発展が益々期待される地域であると述べた。

2月10日～11日

- インド外務省発表によれば、10日、デリーにおいて、インド外務省東アジア局長と中国外務省国境・海洋局長との間で、第5回「印中国境問題の協議と調整のための作業メカニズム」会合が開催された。双方は、昨年署名された国境防衛協力協定の実施、更なる信頼醸成措置等について協議した。
- インド外務省発表によれば、10～11日、デリーにおいて、メノン国家安全保障顧問と楊潔チ中国国務委員の間で第17回印中国境問題特別代表会合が開催された。また、楊潔チ国務委員は、シン首相を表敬した。タイムズ・オブ・インディア紙は、右会合において、中国は、国境の両軍兵士の行動を統制する行動規範を策定することを提案したと報じた。

メモ:

第17回印中国境問題特別代表会合は、印中国境問題に関する最もハイレベルな協議。インド外務省発表の概要は以下のとおり。

※双方は、昨年の李克強総理訪印及びシン首相訪中後の印中関係を肯定的に評価し、友好交流年の本年、モメンタムを維持し、人的交流の促進、対テロ、軍縮・安全保障、海上問題等の二国間問題につき定期的に対話を実施していきたいとした。東アジア・サミットや西アジア・アフガニスタン問題での協力等、地域的・国際的問題についても協議した。

※双方は、先に合意した3段階プロセスの2段階目にある、国境問題解決の枠組みに基づき、協議を継続した。これは、国境問題解決のための政治的指針と指導原則に基づくものである。また、国境防衛協力協定の早期実施を含む、追加的な信頼醸成措置につき詳細に述べた。更に、本年早期に年次の防衛対話を実施するという決定を歓迎。

2月13日

- タイムズ・オブ・インディア紙によれば、13日、パウエル駐インド米大使は、グジャラート州において、モディ同州首相に会った。2005年に米国がモディ氏へのビザ発給を差し止めて以来、9年ぶりの米国大使によるモディ氏への往訪となった。

メモ:

14日付ニューヨークタイムズ紙社説は、パウエル駐インド米大使にモディ氏と会談させるという米国の決定は、長い疎遠な関係の転換であり、インドと関与していく、そして、次期首相になる可能性が高い、議論的であるやっかいな政治家と関与していくという現実的な措置であったと論じた。また、オバマ大統領は、ブッシュ前大統領ほどインドに関心を払ってきていないが、南アジアにおける民主主義の頼みの綱としてのインドの中核的な役割と、進展している日印関係を踏まえれば、深刻な失敗であるとし、今年、誰が次期首相になるかにかかわらず、パートナーシップを強化するために多くのやるべきことがある、モディ氏との関係の門戸を開くことは、必要なステップであると論じた。

2月24日

- インド国防省発表によれば、24日、デリーにおいて、第6回印中防衛・安全保障対話が、マトゥール国防次官と王貫中・中国人民解放軍・副総参謀長の間で開催された。双方は、南アジア・地域の安全保障状況につき戦略的協議及び意思疎通の強化が認識の共有・相互理解の促進に資するとの見方で一致した。

メモ:

本件対話では、そのほか、本年中の中国国防相訪印の提案が歓迎され、また、本年中に軍事作戦部長間の上級レベル交流をインドで実施し、国境問題の管理に関する実質的な措置につき協議をすることを決定。また、本年中に次回陸軍共同訓練をインドで実施することや、海上安全保障分野での両海軍間の協力強化等でも一致した。

2月28日

- インド外務省発表によれば、サルマン・サウジアラビア皇太子兼副首相兼国防相が、26日から28日まで、インドを公式訪問し、ムカジー大統領を表敬するとともに、アンサリ副大統領及びシン首相と会談した。

今月の注目点:「モディ首相」への期待

2月14日付タイムズ・オブ・インド紙は興味深い世論調査の結果を発表した。当該調査結果によれば、インド人民党(BJP)率いる国民民主連合(NDP)は227議席(うちBJPは202議席)を獲得するという。モディ氏が首相になるためには、BJPが210議席以上獲得する必要があるとされ、現時点ではモディ首相誕生が確実な状況ではない。しかし、BJPが一層優勢になるにつれその可能性は少しずつ高まってきている。こうした流れに伴い、昨今のモディ・グジャラート州首相を取り巻く環境が変化している。2002年にグジャラート州内で1200人以上のイスラム教徒が死亡した宗教暴動を黙認したとして非難されたモディ同州首相は欧州諸国から遠ざけられ、米国には「好ましくない人物」として2005年以降査証発給を拒否され続けてきた。しかし、近年、欧州諸国はモディ氏に好意的なアプローチを行っており、モディ氏のウェブサイトには、笑顔でモディ氏と握手する駐インドの欧州各国大使の写真が掲載されている。報道によれば、本年1月に駐インドEU大使が、「モディ氏は、政治の場面において大変な重要な人物であり、我々は、彼の考え、そして、しるべき権力の座に就いたときの彼の計画に関心がある」と述べた。さらには、本年2月13日、パウエル駐インド米国大使が、モディ氏とグジャラートで会談した。これは2005年以来の米国とモディ氏のハイレベルでのコンタクトであった。

モディ氏は、1950年生まれの63歳、紅茶スタンドを経営する父親を手伝いながら幼少時代を過ごした。BJPの支持団体であり、ヒンドゥー至上主義をかかげる民族義勇団(RSS)のメンバーとなり、政治の世界に入った、いわばたたき上げの人物である。2002年のグジャラート州内の宗教暴動では国内外で非難されているが、一方でその経済面での成果は大変注目されている。モディ氏はグジャラート州首相として同州への直接投資の呼び込みを積極的に行い、投資を誘致するためのセミナーを隔年で開催している。こうした取組の結果、グジャラート州の工業化は進み、今やタタ・モーターズや米フォード・モーターといった大手が工場を設立、近年のグジャラート州は、インドの国内平均を上回る急成長を遂げている。

インド国内の経済状況の改善が急務であるという状況は、モディ氏にとって追い風となっているだろう。現与党・国民会議派の下、ピーク時には10%近くを誇ったインドの成長率が4%台にまで落ち、経済が減速傾向にある今、改革に消極的な政府に代わる経済に強い首相を期待するのは当然の国民の心理である。

インドの政治システムは複雑であり、選挙当日まで予断は許されない。しかし、かつては不適格であると思われていたモディ氏が今や有力な首相候補として認められるようになったという事実は、総選挙の見通しを分析する上でも大変興味深く、BJPと対抗する現与党・ कांग्रेस党政権やその他の勢力にも訴えるものがあるのではないだろうか。

I. 内政

3月5日

●5日、インド政府選挙管理委員会が第16回連邦下院議員選挙日程を発表。4月7日から5月12日にかけて以下のとおり9回にわたり、全国28州・7連邦直轄地の543選挙区において順次実施される予定。開票は5月16日。

- 第1回投票 4月 7日(月)
- 第2回投票 4月 9日(水)
- 第3回投票 4月10日(木)
- 第4回投票 4月12日(土)
- 第5回投票 4月17日(木)
- 第6回投票 4月24日(木)
- 第7回投票 4月30日(水)
- 第8回投票 5月 7日(水)
- 第9回投票 5月12日(月)

3月5日、11日

●5日及び11日、インド政府選挙管理委員会は、各州議会の州議会選挙日程について、総選挙日程に合わせて次のとおり実施する旨発表した。開票は何れの州も5月16日。

- アルナーチャル・プラデシュ州(4月9日)
- オディシャ州(4月10日及び17日)
- シッキム州(4月12日)
- アンドラ・プラデシュ州(4月30日及び5月7日)

メモ:

アンドラ・プラデシュ州について、選挙管理委員会発表によれば、4月30日にテランガナ地域で、5月7日にシーマンドラ地域でそれぞれ総選挙及び同州議会選挙が行われる予定。同州からの分離が決定しているテランガナ地域に関しては、テランガナ州として州議会選挙が行われる可能性も報じられていたが、内務省は、4日、同州成立は6月2日となる旨発表した。

3月7日

●7日付ヒンドゥスタン・タイムズ(HT)紙他各紙は、テレビ局CNN-IBN及び調査機関CSDSが共同実施した下院総選挙に関する世論調査を掲載した。インド人民党(BJP)が193～213議席、 कांग्रेस党が94～110議席を獲得すると予想した。なお、過半数は、272議席。

3月14日～15日

- 14日及び15日付タイムズ・オブ・インディア紙は、テレビ局NDTV及び調査機関ハンサ・リサーチが共同実施した連邦下院選挙に関する世論調査を掲載した。BJPは単独で195議席獲得し、過去最高の獲得議席で下院第一党となるとの調査結果となった。なお、過半数は、272議席。

メモ:

同世論調査では、次の予想が示された。

※主要政党の議席予想は、以下のとおり(10議席以上のみ)。

インド人民党(BJP)	195議席
कांग्रेस党	106議席
全印草の根会議派(AITC)	32議席
アンナ・ドラビダ進歩連盟(AIADMK)	27議席
左派諸政党	18議席
ビジュ・ジャナタ・ダル(BJD)	17議席
大衆社会党(BSP)	16議席
YSR कांग्रेस党(YSRCONG)	15議席
社会主義党(SP)	13議席
テランガナ民族会議(TRS)	11議席
ドラビダ進歩連盟(DMK)	10議席

※最も首相にふさわしい人物として選ばれた人物は以下のとおり。

モディ・グジャラート州首相	42%
ラフル・ガンディー・ कांग्रेस党副総裁	27%
ケジリワル庶民党(AAP)党首	6%
シン首相	5%
マヤワティBSP党首	4%
ママタ・バナジー西ベンガル州首相	3%
ジャヤラリータ・タミル・ナド州首相	3%

3月15日

- 16日付HT紙によれば、15日、BJPは、モディ・グジャラート州首相がウッタル・プラデシュ州バラナシ選挙区から出馬する旨発表した。同紙は、これによりウッタル・プラデシュ州のみならず、隣接するビハール州においても同党の得票率を押し上げると信じられていると報じた。

メモ:

20日、BJPは、モディ州首相がバラナシ選挙区に加え、グジャラート州バドダラ選挙区からも出馬する旨発表した。

なお、下院総選挙では、2選挙区までの出馬が認められる。

3月25日

- 26日付HT紙によれば、25日、ケジリワル庶民党(AAP)党首は、バラナシでの集会において、バラナシ選挙区から立候補し、モディ州首相に挑戦すると発表し、この総選挙をBJPと कांग्रेस党を打ち負かす革命と呼びかけた。同党首は、BJPの支持者から、卵やインクを投げつけられるといった抗議にもあった。

3月26日

- 26日、 कांग्रेस党は、デリー市内において、「Your Voice Our Pledge」と題する総選挙マニフェストを発表した。

3月29日、30日

- 29日及び30日付タイムズ・オブ・インディア紙他各紙は、テレビ局ABP及び調査機関AC Nielsenが共同実施した下院選挙に関する世論調査を掲載した。BJPが209議席、 कांग्रेस党が91議席を獲得すると予想

した。なお、過半数は、272 議席。

Ⅱ. 経済

3月5日

- 5日、インド準備銀行(RBI)は、2013年度第3四半期(13年10月～12月)の国際収支を発表した。経常収支は▲42億ドルで、対GDP比0.9%の赤字となり、前年同期の6.5%に比べて大幅に改善した。この改善の主な要因としては、前期に引き続き、輸出の増加及び特に金の輸入の減少による貿易赤字の低下が挙げられる。資本収支は、2013年度第3四半期の資本収支は▲54億ドルで、前年度同期の206億ドルから大幅に減少した。外貨準備高は、191億ドル増となり、前年度同期の104億ドル減と比べて大幅に増加した。

3月14日

- 14日、インド商工省は、卸売物価指数(WPI)に基づく2月のインフレ率を4.68%(速報値)と発表した。

メモ:

今回の下落の主要因として、高騰が続いていた野菜価格に落ち着きが戻ったことが挙げられ、昨年11月を起点に下落し始め、昨年5月以来となる5%台を割る低水準となった。

Ⅲ. 外交

3月4日～6日

- 10日付HT紙によれば、ビスウォル米国務次官補が4日から6日にかけてインドを訪問し、スジャータ・シン印外務次官等と面会した。

メモ:

同紙は、今回の同国務次官補の訪印によって、元在ニューヨーク印総領事館副領事の逮捕以降緊張していたとされる印米関係は通常の状態に回復されたようであるが、両国間に広がる溝はまだ埋められていない、と報じている。

3月13日

- 13日、インド外務省は、12日に米連邦地裁が不正査証容疑で逮捕された元在ニューヨーク印総領事に対する訴訟を却下したことを受けて、同決定を歓迎する旨発表した。

3月18日

- 20日付ヒンドゥー紙他は、アルワリア印国家計画委員会副委員長が訪中し、徐紹史・中国国家发展改革委员会主任との間で第3回戦略的経済対話を開催したことを報じた。両者は、鉄道を含む様々な分野での協力につき協議し、2つの覚書と2つの行動計画に署名した。

3月18日

- タイムズ・オブ・インディア紙は、18日、シン首相とプーチン露大統領が、ウクライナ及びクリミア情勢につき電話会談を行ったと報じた。同会談において、シン首相は、国家の統一、領土保全の問題についてのインドの一貫した立場を強調し、全ての当事者の自制と政治的・外交的解決策を見いだす協力を望む旨述べた。

3月24日～25日

- 25日、インド外務省は、オランダのハーグで開催された第3回核セキュリティ・サミットの全体会合における「核テロリズムと不法な拡散が依然として国際安全保障にとって深刻な脅威となっており、インドは核の安全保障への違反の可能性につきグローバルな懸念を共有している」とのクルシード外相のステートメントを発表した。

3月31日

- 31日付駐インド米大使館発表によれば、パウエル駐インド米大使がオバマ大統領に辞表を提出し、5月末ま

でに引退し本国に帰国する。

メモ:

4月1日付タイムズ・オブ・インディア紙他各紙は、パウエル大使の辞任は、モディ・グジャラート州首相との関係改善を適切に行わなかったためか、又は、ニューヨーク印総領事館コブラガデ次席領事事案の犠牲なのかもしれない旨、今回の辞任が次期インド政権との印米関係をリセットするお膳立てとなる旨、また、パウエル大使の後任と目される人の中に、オバマ政権の中で最も職位の高いインド系アメリカ人且つグジャラート出身者であるラジブ・シャーマ国際開発庁(USAID)長官の名前がある旨論じた。

IV. 日印関係

3月11日

- 11日付ビジネス・ライン紙は、インドを訪問中の葛西JR東海会長のインタビュー記事を掲載した。記事によれば、葛西会長は、インドで高速鉄道を導入しようとする場合、整備費用の大部分は政府が負担しなければならない、初期投資額は非常に高額であるものの、裨益者は利用者のみではなく社会や地域全般も裨益することから、高速鉄道整備により利益を得る地域で課税措置を講じることにより財源の一部を捻出できる旨等々述べた。

3月31日

- 外務省発表によれば、31日、ニューデリーにおいて、八木毅駐インド日本大使とクッラー・インド財務省経済局局長との間で、デリー高速輸送システム建設計画(フェーズ3)(第二期)、新・再生可能エネルギー支援計画(フェーズ2)等、総額2,519億6,600万円を限度とする円借款5件に関する書簡の交換が行われた。

今月の注目点: インド総選挙: 大票田を制するのは誰か?

インドの下院総選挙は、総議席543議席のうち、過半数の272議席を制した政党又は政党連合が政権を握る。28州・7連邦直轄地に人口比に応じて議席が配分されているが、議席数の多い上位10州は以下のとおりであり、同10州で計399議席にも達する。そのため、こうした大票田となる州で議席を伸ばせるか否かが総選挙の趨勢を決めると言えよう。上記の14日及び15日付タイムズ・オブ・インディア紙掲載の世論調査によれば、同10州各州において議席数で第一党となる政党及び同党予想議席数は、以下に併記したとおり。地域政党が第一党となる3州を除き、残り7州では全てBJPが第一党になるとの、BJPの圧倒的な優勢ぶりが予想されている。

①ウッタル・プラデシュ州	(80議席)	BJP	40議席
②マハーラーシュトラ州	(48議席)	BJP+シブ・セナ(連携)	33議席
③西ベンガル州	(42議席)	全印草の根会議派	32議席
④アンドラ・プラデシュ州	(42議席)	YSR कांग्रेस党	15議席
⑤ビハール州	(40議席)	BJP+人民の力党(連携)	23議席
⑥タミル・ナド州	(39議席)	アンナ・ドラビダ進歩連盟	27議席
⑦マディヤ・プラデシュ州	(29議席)	BJP	24議席
⑧カルナタカ州	(28議席)	BJP	20議席
⑨グジャラート州	(26議席)	BJP	23議席
⑩ラジャスタン州	(25議席)	BJP	19議席

最大の議席数を有するウッタル・プラデシュ州。上記世論調査によれば、BJPは、同州にて40議席もの獲得が予想され、最大の大票田に。3月15日、BJPは、グジャラート州に地盤を有するモディ・グジャラート州首相が、ヒンドゥー教の聖地として知られるウッタル・プラデシュ州バラナシ選挙区から出馬する旨発表した。BJPは、この出馬により、ウッタル・プラデシュ州や隣接州の

ビハール州での得票を押し上げる効果があると期待する。同選挙区では、1991年以降、一貫してBJP候補者が当選してきていることから、モディの当選が有力視されている。一方、バラナシ選挙区については、BJP首相候補に対立候補を擁立するという象徴的意味合いがあるため、ケジリワル庶民党(AAP)党首も同選挙区からの出馬を宣言し、社会主義党(SP)や大衆社会党(BSP)も党幹部の出馬を発表した他、 कांग्रेस党も党幹部に出馬を打診している模様。同選挙区は混戦が予想されるが、混戦となるほど反モディ層の票が割れ、結果的にモディに有利な運びとなる可能性が高い。

5. イベント紹介 Japan-India Events

=◇ 最近のイベント ◇=

◆インド大使館 新経済・商業担当公使のご着任と経済班の強化・改編



〈左から、
スニタ・ナランゲー等書記官、アッバガーニ・ラム参事官、
アルビンド・シン経済担当公使、比良竜虎理事〉

2月25日東京日比谷の日本外国特派員協会に於いて、(公財)横浜印度商工会と在日印度商工会議所の共催で、アルビンド・シン経済担当公使の着任歓迎レセプションが開催されました。日印協会から平林博理事長が出席し、歓迎のスピーチと乾杯の発声を致しました。

出席されたディーパ・ゴパラン・ワドワ駐日大使からは、アルビンド・シン経済担当公使の着任を機に、在京インド大使館では、わが国の経済界、産業界との結びつきを一層強固なものとし、経済発展をわが国の協力を得て一層促進するため、大使館の経済班の強化・改編をしたことの紹介がありました。

アルビンド・シン公使は、主に日印両政府が関与する大規模プロジェクト(デリー・ムンバイ間貨物専用鉄

道建設計画、デリー・ムンバイ間産業大動脈構想、チェンナイ・バンガロール間産業大動脈構想など)を担当し、日本政府、ジェトロ、JICAなどの政府関係機関のほか、日本経団連や日本商工会議所等の経済界・財界関係者との連絡・調整を担当されます。他方、わが国民間企業の対印進出等を支援するため、アッバガーニ・ラム参事官をヘッドとし、スニタ・ナランゲー等書記官以下日本人スタッフも配置した部局が新設されました。既に進出されている企業のみならず、これからインド進出を考える企業の方々の相談窓口が整備強化されたわけで、活躍が期待されます。ラム参事官は本邦二回目の赴任で、日本語を大変流暢に話されます。

〈本文中の写真提供：比良竜虎理事〉

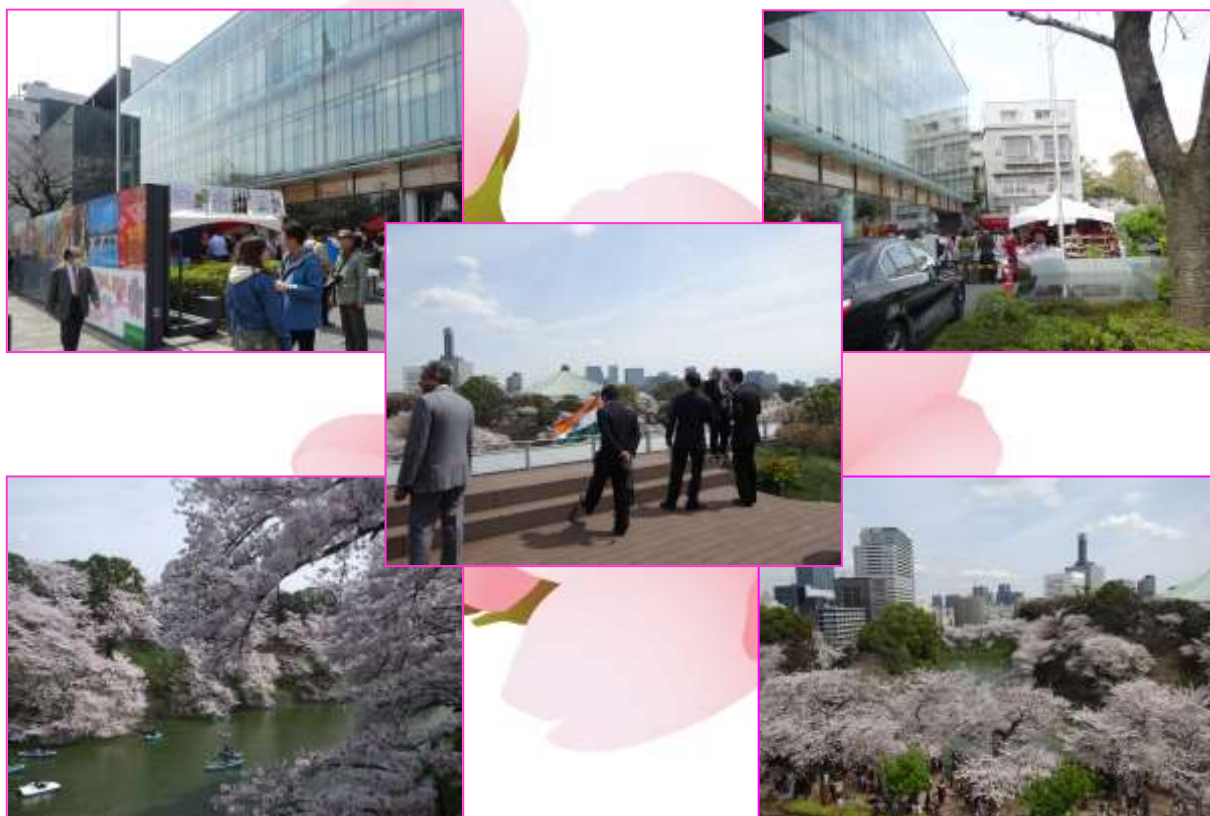
◆A Hanami Party at the Embassy of India & Sakura Festival 2014

インド大使館では毎年桜の開花時期に、数日に亘り花見パーティーを開催しています。

また、大使館敷地内では、同時期に恒例の“Sakura Festival”が開催され、サリーやパンジャビドレスなどの衣料品、靴やアクセサリー、香辛料など数々のインド産品が販売され、インド料理やワインなどの飲食店も出店します。

ステージでは、インドの古典舞踊やボリウッドダンス、音楽やヨガなども紹介され、大勢の方が、桜を見ながら、買い物を楽しみ、インド文化を体験する場となっています。

一般の方々に賑わう大使館や、大使館前の千鳥ヶ淵の桜の様子を写真でご紹介致します。なお、今月号の表紙は、“Sakura Festival 2014” 初日に大使館から撮影した千鳥ヶ淵の様子です。



=◇ 今後のイベント ◇=

◆日印交流に尽力されて 70 年 ～三角佐一郎氏の白寿記念 写真展と祝賀会～ ご案内

三角佐一郎顧問は、永く日印協会の専務理事として日印交流にご尽力されました。三角顧問の白寿を記念して、写真展・祝賀会を開催致します。いずれも会場は、インド大使館文化センター内(東京都千代田区九段南 2-11、地下鉄『九段下駅』徒歩 5 分)です。

◆「三角佐一郎」写真展

日 時: 2014 年 5 月 15 日(木)～20 日(火) 除く 17・18 日(土曜・日曜日)

初日 15 日-13:00～18:00 / 16・19・20 日-10:00～18:00

会 場: インド大使館 ICC ギャラリー

入 場: 無料

◆三角佐一郎氏 白寿祝賀会・誕生記念茶話会

日 時: 2014 年 5 月 20 日(火)

祝賀会 17:00～18:00 受付 16:30 於 インド大使館 ICC 講堂

茶話会 18:15～19:00 於 インド大使館 ICC 講堂前のロビー

参 加: 祝賀会・茶話会に参加ご希望の方は、下記の申込・問合先に直接お問い合わせ下さい。

主 催: 『三角佐一郎氏の白寿を祝う会』

協力(予定): インド大使館、公益財団法人日印協会、在日インド商工会議所、東方学院、

NPO 日印交流を盛り上げる会、DIC(ディスカバー・インディア・クラブ)

申込・問合先: 『三角佐一郎氏の白寿を祝う会』世話人 鹿子木(かのこぎ)

メール・アドレス kanokogik2@tbm.t-com.ne.jp ☎・FAX 0466-34-0795

◆もっと知ろう、～日本に初めて来たインド人、婆羅門僧菩提僊那を継承する～

菩提僊那継承記念講演会 / インド政府 ICCR 派遣インド古典舞踊カタカリ奉納公演

一昨年、日印国交樹立 60 周年の記念催事として、東大寺においてインド政府は 1276 年の時を経て菩提僊那を継承しました。昨年は、8 月に東大寺とインド大使館で継承事業を開催しました。広く普及する事を主旨として 3 年目の今年も継承します。

日 時: 2014 年 5 月 18 日(日) 11:00～15:30

*記念講演会

*インド古典舞踊カタカリ奉納公演

会 場: 東大寺 中門 奈良県奈良市雑司町 406-1

記念公演: 金鐘会館ホール / 奉納公演: 中門(雨天の場合は金鐘会館ホール)

JR 大和路線・近鉄奈良線「奈良駅」から市内循環バス(外回り)「大仏殿春日大社前」下車徒歩 5 分

入 場: 無料

主催・問合先: 「NP0 法人日印交流を盛り上げる会、

新潟県十日町市大池 265 ミティラー美術館内 ☎ 025-752-2396

共 催: インド大使館 東大寺(申請中)

◆パండిト・ビルジュー・マハーラージ 来日公演 2014

カタックの世界的巨匠ビルジュー・マハーラージ師、待望の来日公演です。本場のカタックの魅力を目にすることのできる貴重な機会をお見逃しなく。

日 時: 2014 年 5 月 11 日(日) 16:00(15:30 開場)

会 場: シアター1010 東京都足立区北千住 3-92 千住ミルディス I 番館 10F ☎ 03-5244-1010

北千住駅 4 番出口直結

入 場: 4,000～10,000 円

※会員特典-B 席 5,500 円→5,000 円 / S 席 7,000 円→6,500 円

特典を希望される方は、申込専用紙(来日公演チラシの裏面)にご記入のうえ FAX でお申込み下さい。お名前の後ろに必ず日印協会会員とご記入ください。お申込み後一週間以内に、ご入金ください。ご入金確認後のチケット送付に関しては招聘委員会が負担いたします。尚、御席は無くなり次第終了となります。この場合、委員会から直接ご連絡いたしますので、ご連絡先、Tel、メルアドなどを必ずご記名ください。

主催・問合先: パండిト・ビルジュー・マハーラージ招聘委員会

東京都千代田区麹町 3-12-7 麹町エイチティービル B1

E-mail info@miyabi-kathak.com ☎ 090-8613-8509 (平日 11:00～14:00)

◆インド舞踊の宴

アットホームなインド舞踊のフェスティバルです。

日 時: 2014 年 5 月 15 日(木) 19:00～(予定)

会 場: カスケードホール 東京都千代田区一番町 12 ☎ 03-3265-6311

地下鉄有楽町線「麹町駅」5 番出口より徒歩 5 分

入 場: 当日 4,500 円 / 前売 4,000 円

※会員特典-入場料金 4,000 円→3,000 円

お申込みの際に日印協会会員と必ずご明記ください。

主催・問合先: みやびカタックダンスアカデミー

東京都千代田区麹町 3-12-7 麹町エイチティービル B1

E-mail info@miyabi-kathak.com ☎ 090-8613-8509 (平日 11:00～14:00)

奈良穀顧問 お別れ会

肺腺癌のため、2014年1月20日に81歳で逝去された奈良穀顧問のお別れ会が、開かれました。

インド大使館 ICC でのベンガル語講座を長く担当されていたご縁もあり、3月3日(金)、インド大使館 インディア・カルチュアル・センター(ICC)講堂で行われました。当日は、ご家族、そして多くのご友人、教え子、関係者が集まり、顧問とのお別れをされました。

また、3月29日(土)には、学会会館において、“奈良穀先生お別れ会”が開かれました。故人がご用意された挨拶を臼田雅之東海大学名誉教授が代読され、先生とご縁のあった多くの方がお集まりになり、お別れをされました。

奈良穀顧問の、御冥福をお祈り申し上げます。



6. 新刊書紹介 Books Review

§ 『現代インド・フォーラム』 2014年 春季号 No.21

今号では、各国から見た日印関係について、下記の4論文を掲載しております。是非、ご一読下さい。
協会ホームページ(URL <http://www.japan-india.com/forum>)で公開中です。



1. An American Perspective of Japan-India &
US-India-Japan Trilateral Relations
Satu Limaye; Director, East-West Center in Washington
2. 中国から見たインドと日印関係
三船 恵美(駒澤大学教授)
3. Australian Views of India and of India-Japan Relations
Purnendra Jain; Professor, University of Adelaide
4. 欧州から見たインドと日印関係
小林 正英(尚美学園大学准教授)

7. 日印貿易概況(2013 年第 4 四半期-前年との比較)

Trade statistics between Japan & India (October-December)

(単位：100万円)

輸 出 総 額 (日本 → インド)	2012年10～12月 第4・四半期	2013年10～12月 第4・四半期	輸 入 総 額 (インド → 日本)	2012年10～12月 第4・四半期	2013年10～12月 第4・四半期
	210,271	187,583		135,506	190,851
食 料 品	81	89	食 料 品	19,786	30,278
原 料 品	3,167	3,255	魚介類	8,822	14,813
鉱 物 性 燃 料	8,056	6,042	(えび)	6,959	12,259
化 学 製 品	17,295	21,698	肉類	-	-
有機化合物	5,707	6,958	穀物類	65	127
医薬品	775	717	野菜	50	79
プラスチック	6,076	7,852	果実	1,172	1,501
原 料 別 製 品	51,482	47,096	原 料 品	11,998	12,937
鉄鋼	35,239	29,299	木材	23	26
非鉄金属	1,948	2,820	非鉄金属鉱	3,233	2,788
金属製品	5,986	6,728	鉄鉱石	3,823	4,700
織物用糸・繊維製品	2,169	2,535	大豆	-	-
非金属鉱物製品	2,107	2,450	鉱 物 性 燃 料	54,329	78,319
ゴム製品	3,513	2,706	原油及び粗油	-	-
紙類・紙製品	515	539	石油製品	54,329	78,319
一 般 機 械	73,612	51,499	(ナフサ等)	54,319	76,914
原動機	10,779	10,276	石炭	-	-
電算機類(含周辺機器)	469	584	化 学 製 品	14,860	26,590
電算機類の部分品	838	1,032	有機化合物	8,792	19,160
金属加工機械	20,930	8,702	医薬品	2,188	2,220
ポンプ・遠心分離器	9,723	4,527	原 料 別 製 品	18,137	23,940
建設用・鉱山用機械	887	713	鉄鋼原料製品	4,758	6,206
荷役機械	3,086	2,903	非鉄金属	109	1,147
加熱用・冷却用機器	3,756	1,321	金属製品	575	640
繊維機械	3,389	5,122	織物用糸・繊維製品	3,052	4,624
ベアリング	1,760	2,085	ダイヤモンド加工品	8,600	9,988
電 気 機 器	31,971	28,847	貴石及び半貴石加工品	245	789
半導体等電子部品	4,184	2,767	その他非金属鉱物製品	9,163	10,776
(I C)	1,690	1,553	木製品等(除家具)	36	26
映像機器	1,302	1,590	一 般 機 械	3,543	4,157
(映像記録・再生機器)	1,245	1,514	原動機	1,049	1,054
(テレビ受像機)	57	76	電算機類(含周辺機器)	72	171
音響機器	31	42	電算機類の部分品	107	261
音響・映像機器の部分品	159	119	電 気 機 器	3,399	4,434
重電機器	4,466	4,702	半導体等電子部品	425	652
通信機	556	426	(I C)	42	22
電気計測機器	6,728	5,666	音響映像機器(含部品)	12	29
電気回路等の機器	7,840	5,958	(映像記録・再生機器)	2	1
電池	264	160	重電機器	204	162
輸 送 用 機 器	11,749	13,430	通信機	297	220
自動車	100	144	電気計測機器	492	1,133
(乗用車)	80	39	輸送用機器	2,053	2,716
(バス・トラック)	19	43	自動車	279	176
自動車の部分品	10,095	8,456	自動車の部分品	1,488	2,039
二輪自動車	84	87	航空機類	-	-
船舶	-	-	そ の 他	7,400	7,480
そ の 他	12,850	11,269	科学光学機器	160	253
科学光学機器	3,185	2,493	衣類・同付属品	2,829	3,414
写真用・映画用材料	1,199	771	家具	251	246
記録媒体(含記録済)	419	425	バッグ類	954	1,062

“0”は表示単位に満たないもの、“-”はデータの無いもの

資料：公益財団法人日本関税協会『外国貿易概況』『日本貿易月表』

8. 掲示板 Notice

＜次回の『月刊インド』の発送日＞

次回発送は2014年5月16日(金)を予定しております。催事チラシの封入をお考えの方は、日程をご確認のうえ事務局までご連絡下さい。チラシを封入する際には、当該催事の協会会員に対する割引等特典の配慮をお願いしております。チラシ印刷の前にご一考下さい。

＜事務局からお願い＞

3月25日付で2014年度会費納入のお願いをお送り致しました。本年度も、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。既に会費を納入して下さいました方には、納入のお礼を同封してお届けしております。

会費を納入される際には、ご入会時に登録されたお名前でお振込み下さい。個人会員の方が、会社名義でお振込みをされますと、入金の確認ができず、会員継続の手続きが遅れる場合もございますので、必ず個人名でお振込み下さい。ご協力の程お願い申し上げます。

＜編集後記＞

通勤途中の地下鉄に、インド出身らしき男性が乗ってきました。ちょうど編集子の隣に座ったのですが、スパイシーな香りがしないので、インドの方ではなかったのかなとチラッと見ましたら、手にしたiPhoneのタッチパネルを操作し、デーバナーガリー文字で何やら書き込みをしています。パネル上に表示されるキーボードもデーバナーガリーでした。その前に見ていた絵文字から、日本で購入したiPhoneかなと思ったのですが、どうやったらデーバナーガリーのフォントが使えるようになるのか、編集子にはわかりません。いっそ彼に尋ねてみようか、教えて貰えたとして下車まであと数分しかないのに時間は足りるだろうか、そもそも日本語が通じるだろうか、どうしよう、ああ、でも知りたい、と逡巡するうちに、目的地に着いてしまいました。出勤途中ですから、下りないわけにはいきません。

人生で初めて、見ず知らずの男性に声を掛けようか、と真剣に悩んだ日でした。…(記 渡邊恭子)



入会随時受付中



1903年、大隈重信、澁澤榮一らによって創設された日印協会は、これまで日印の相互理解の促進を目的として、両国の友好親善に関する事業を行ってきました。両国の友好関係を更に深める為にも、協会会員の獲得は重要な課題であると考えています。

インドに興味のあるお知り合いの方がいらっしゃいましたら、是非日印協会をアピールして下さい。ご希望により、当協会の活動に関する諸資料をお送りいたします。日印協会の活動に賛同して頂ける多くの法人会員・個人会員のご入会をお待ちしております。

☆年会費：個人 6,000円/口
学生 3,000円/口
一般法人会員 100,000円/口
特別法人会員 150,000円/口

☆入会金 個人 2,000円
学生 1,000円
法人 5,000円
(一般法人、特別法人会員共に)



本誌に掲載致します投稿等は、執筆者のご見解・ご意見であり、当協会の見解を反映するものではありませんので、念のため申し添えます。

月刊インド Vol. 111 No. 3 (2014年4月11日発行) 発行者 平林博 編集者 青山 鑛一
発行所 公益財団法人 日印協会
〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町2-1-14 スズコービル2階
Tel: 03-5640-7604 Fax: 03-5640-1576 E-mail: partner@japan-india.com
ホームページ: <http://www.japan-india.com/>

